

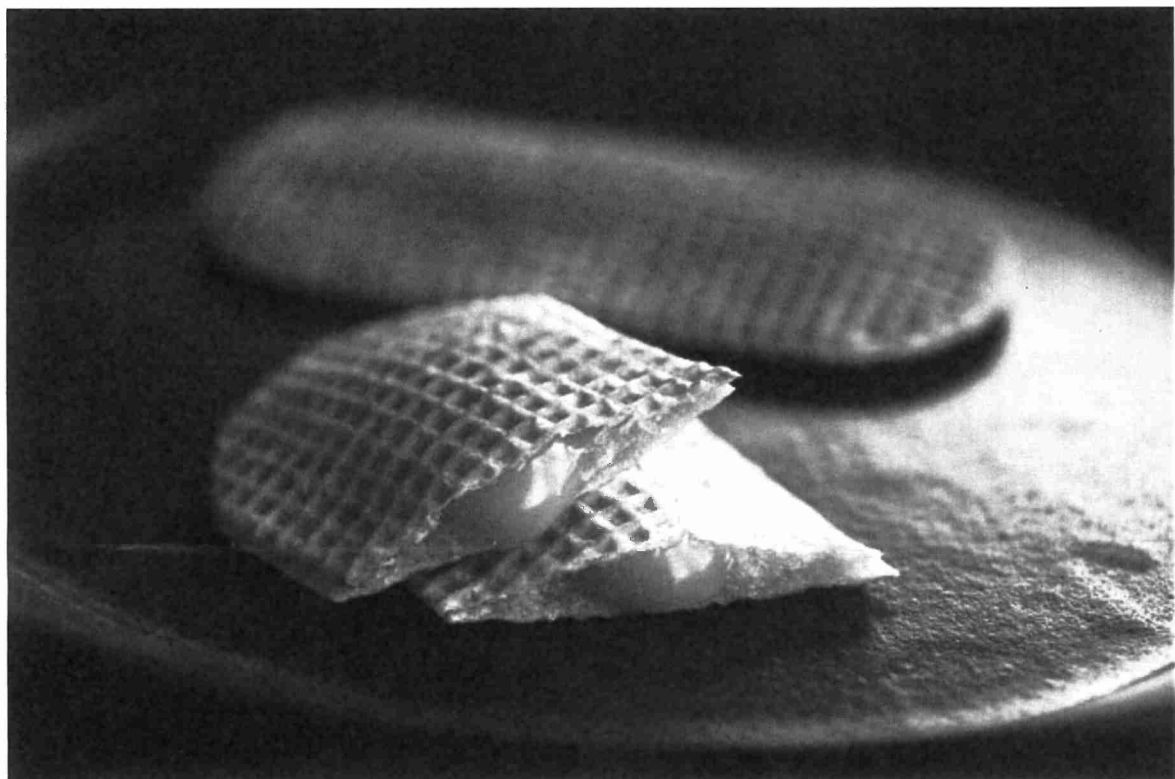
ぜん ぎょう じ
善巧寺報

7 月号



月刊●善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660 榎本明覚



栃木県那須「バターのいところ」
フワシャリとろっの食感が斬新で大人気のお土産「バターのいところ」。現在の酪農
王国那須があるお蔭には、荒地を切り拓いたご門徒方の歴史がありました。

▼二〇二四年七月一日▲

東京教区の名品・特産品 ~ 栃木北組 バターのいところ ~

定例法座

毎月
十一日

◎七月十一日(木)午後二時

～三時

於 善巧寺 法輪会館

「茗荷(みよが)」

今が旬、おそうめんの薬味として、夏野菜との和え物として、お味噌汁の具としても美味しく頂ける「茗荷」。名(茗)を背負う(荷)植物という名称はお釈迦さまのお弟子であった周利槃特(しゆりはんどく)に由来するという俗説が有ります。

周利槃特という方はたいそう物覚えが悪い人でした。お釈迦さまの説法に感激し同じく志を抱いた兄と共に出家するのですが、何日経っても説法の一節すら覚える事が出来ません。兄からは愛想を尽かされ、心無い出家者たちからはバカにされ、何より釈迦さまの言葉を一句も覚えられない自分自身のふがいなさを感じ、毎日泣き暮

らしていたのでした。悲しみの淵にある周利槃特にお釈迦さまは「お経を覚えるのは一旦やめにして、毎朝道場を掃除しなさい」と一枚の布を渡されました。そして「ひと拭きする毎に『塵を払わん、垢を除かん』と唱えなさい。」と課題を与えられました。周利槃特はその言いつけを愚直に守り続けます。そして遂に『塵を払わん、垢を除かん』の真意、払い除くべき塵垢とは、怒り・嫉妬・疑い・驕り・卑下・悲嘆・昂揚など心を平静から破る煩惱であり、常に気をつけて払い除いていくのが仏道であると悟るのです。この悟りにより、愚か者の槃特と罵られていた者は、他の兄弟子たちに先んじて阿羅漢(聖者の位)となったのでした。

さて、周利槃特は自分の名前も忘れてしまうので、常に背中に「周利槃特」と書いた紙を貼っていたと言います。彼の死後、そのお墓には香り高い植物が生えました。名を背負う愚かで、しかし尊き者の花「茗荷」です。こうした説話から「茗荷を食べると周利槃特のように物覚えが悪くなる」という俗信が生まれました。旅人に茗荷尽くしの料理を出せば、翌朝財布を預けている事を忘れて出発するだろうという魂胆の主人とその妻が、逆に宿代を取り損ねるといふオチの落語「茗荷宿」の題材にもなっています。

周利槃特は果たして愚か者でしょうか？ 私たちもいずれ、自分の名前さえ忘れてしまう老・死に直面しなければならぬでしょう。しかしそのような者を決して忘れず、見捨てることなく、必ず心穏やかな悟りの世界に連れ帰る、と固く誓われた阿弥陀如来の本願があるぞ、とお釈迦さまは説かれました。いま、そのことを聴聞させて頂き大安心の仏の御心に包まれた生活を送らせていただきたいと思います。

みほとけ会月例会

★ ZOOM ミーティング ★

開催日時は、

毎月第一木曜日、第三木曜日

午後八時開始・九時すぎ終了

参加ご希望の方は、

jetfidget@gmail.com まで

※九月は、代官山寺カフェを会場に行います。日時九月七日(土)午後六時〜七時半。席料五〇〇円+お飲み物を一つオーダーして下さい。テーマは、『極小微塵の中に大無辺の世界有り』華嚴経の世界です。



魁！仏教塾

宗派を問わず大乘仏教の構造を理解したい方のための講座(理解できるまでの徹底指導！笑)です。

次回、七月二十七日(土)

第七回(補講Ⅱ)

「唯識(心が織り成す世界)」

午後一時開講〜三時まで

途中、おやつ休憩入ります

場所・善巧寺法輪会館

会費五〇〇円

(精進おやつ・資料代)

※補講含め計五回参加された方にはもれなく記念品を贈呈させて頂きます。

今まで「魁！仏教塾」でご提供させて頂いた精進おやつを振り返ってみました。

第一回 「かぼちやのラム酒煮」

第二回 「ひとくち栗蒸し羊羹」

第三回 「うなぎもどき」

山芋の生地をうなぎの身に、焼き海苔をうなぎの皮に見立て蒲焼風に揚げ焼きした精進料理。

第四回 「ほたてもどき」

現代の精進料理レシピ。エリンギを円柱状にスライス。格子目を入れてオリブオイルで焼けば、見た目は完全にホタテの貝柱ソテー。食感も貝っぽいですよ。

第五回 「ごま豆腐」

精進料理界のスーパースター。本来は生ごまを煎るところから修行ですが、今回は市販の練りごまで。ひたすら練り上げる事が仕上りの滑らかさに直結します。

第六回(補講Ⅰ)

「納涼ラタトゥイユそうめん」

さて、今回は何を作りましょうか、お楽しみに！レシピご希望の方は、善巧寺まで。

◆◆春日部だより◆◆

◎例年盆参詣をさせて頂いているお宅には参詣日時を記したお手紙を同封しております。変更・休止等のご要望がございましたら、〇四八・七三四・七六六〇(善巧寺)までご連絡下さい。